

領域プロジェクト名称	古くから蓄積されてきた地下圏情報の有効活用法に関する研究
担当教員	愛知正温
プロジェクトの狙い	地下圏に関する情報は、国土開発や環境保全において必要不可欠なものであるが、時代や地域によってさまざまなフォーマット・データクオリティのデータが混在して蓄積されており、利用しにくいデータベースとなっている。本プロジェクトでは、そこから有用な情報を分別・抽出する手法を構築するとともに、研究や実務に利用しやすいフォーマットに変換して、今後の有効活用への道筋をつける。
プロジェクトの内容	1920年代からの深井戸の情報を集めた全国地下水資料台帳を事例として検討を行う。一定の基準で位置情報や地質等の記載情報のクオリティチェックを行ってデータを分別し、最近広く使われているフォーマット（BED0300.DTD）に変換するプログラムを開発する。開発したプログラムによって変換したデータを産業技術総合研究所開発のフリーソフト「ボーリング柱状図解析システム」を用いて可視化するとともに、データクオリティに応じた活用方法に関する提言を行う。
プロジェクト開催場所	工学部 9号館 305号室など
プロジェクト計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国地下水資料台帳のテキスト分析および空間情報分析 2. データクオリティチェックと軽微な誤記載・表記揺れの対応 3. フォーマット変換と可視化 4. 有効活用方法の提言と課題のとりまとめ
ウェブサイト	なし（直接来訪のこと）